

ADATAR

あだたら



特集1

「JICAボランティアで
培った経験を
日本の企業へ!」

平成26年度
第4次隊 **小手川雄樹**さん
(青年海外協力隊) マレーシア
[南相馬市在住]

特集2 現地レポート

「世界で活躍する
JICAボランティア」

平成28年度
第1次隊 **大槻美佳**さん
(青年海外協力隊) モンゴル
[伊達市出身]

VOICE JICA 応援団

岳温泉居酒屋 安兵衛 **長島行子**さん

イベントレポート

「地方マスメディア派遣」で
ルワンダへ!



EVENT

イベント

「地方マスメディア派遣」で/
ルワンダへ!



プロジェクトで研修を受ける教員の授業(3歳児/算数)



算数授業の進行を見守る廣瀬専門家



UNDO-KAI(運動会)で幼稚園児のダンスを披露

2016年11月から、福島市を拠点とするNPOルワンダの教育を考える会がJICA二本松の委託を受け「草の根技術協力/ルワンダ共和国 小学校教員の算数指導力向上プロジェクト」を実施しています。現場はルワンダの首都キガリ市にあるウムチョムイーザ学園。今回、JICA二本松職員がその中間モニタリングのため現場を訪問しました。ウムチョムイーザ学園では廣瀬専門家がルワンダ人の教員向け研修を実施。算数の指導方法を紹介しています。教室の現場では既にその効果が表れてきており、日本式の指導案や教材が活かされた授業で子ども達が一生懸命学んでいました。プロジェクトは2018年度まで続き、教員研修を他校・他地区でも実施できるよう拡げていきます。

このプロジェクト視察の為、3月には岡本行夫JICA特別アドバイザーもウムチョムイーザ学園を訪問。学校には日本式のUNDO-KAI(運動会)を開催したいという夢がありながらグラウンドが無いことを知った岡本氏は、帰国後に日本企業への寄付を呼びかけ、NTTドコモ社が寄付を決定。8月下旬からグラウンド敷設工事が始まり、その創設記念式典を兼ねて10月9日(月)「体育の日」にルワンダで初めてのUNDO-KAI(運動会)が開催されました。種目は、宝探し競争、リレー、借り物競争、幼稚園児の遊戯です。子どもたちの懸命な姿と笑顔が印象的でした。周辺校からは来年度は地区合同の運動会にしたいという申し出があったそうです。今回、JICA二本松では同時に福島民報新聞・福島民友新聞の記者もルワンダへ派遣しJICA事業を取材していただきました。UNDO-KAIやプロジェクトについて各紙が連載記事で特集し報じ、2017年12月にはふくしまFMでも紹介される予定です。



二本松市を代表する方々のあいさつと訓練生のパフォーマンスで盛り上がった



あいさつする青年会議所
高野 知典 理事長

秋の大感謝祭 in JICA二本松 開催!

10月28日(土)、地域との連携強化を図るためJICA二本松訓練所で市民の方々と2017年度3次隊訓練生との交流イベントを開催しました。

4月23日(日)開催「朝桜観覧会」、7月29日(土)開催「夕涼みの集い」に続く今年度3回目の交流イベント「秋の大感謝祭 in JICA二本松」では、二本松市役所、二本松商工会議所、二本松青年会議所、にほんまつ地球市民の会、あだたら商工会、青年海外協力協会等、総勢150名が参加しました。イベントでは地域の方々のJICA二本松訓練所に対する期待と訓練生のパフォーマンスで盛り上がりしました。

イベント情報

- 12月13日(水) ……2017年度3次隊青年海外協力隊 修了式
- 12月17日(日) ……地球体験キャラバン(福島市)
- 12月25日(月) ……地球体験キャラバン(田村市)

特集1

JICAボランティアで 培った経験を日本企業へ！



平成26年度第4次隊
派遣国: マレーシア 職種: 環境教育
小手川雄樹さん(南相馬市在住)

マレーシアで青年海外協力隊として活動、現在は(株)あすびと福島が運営する南相馬ソーラー・アグリパークで津波被災地を活用し、太陽光発電植物工場など、体験型のプログラムを通して復興を担う人材育成を狙いとした施設で活動をしている。

小さいころから身近にあった「海外」

私は物心ついたときから海外への興味がありました。子供の頃の原体験として、私の実家ではJICA研修員のホームステイ先としてホストファミリーを長い間やっておりました。何人もの外国の方々と一緒に生活をするということが、日常となっていました。日常になり過ぎてそのことはずっと忘れており、青年海外協力隊に合格して環境教育の事前研修に参加した会場がJICA九州だったことで思い出しました。

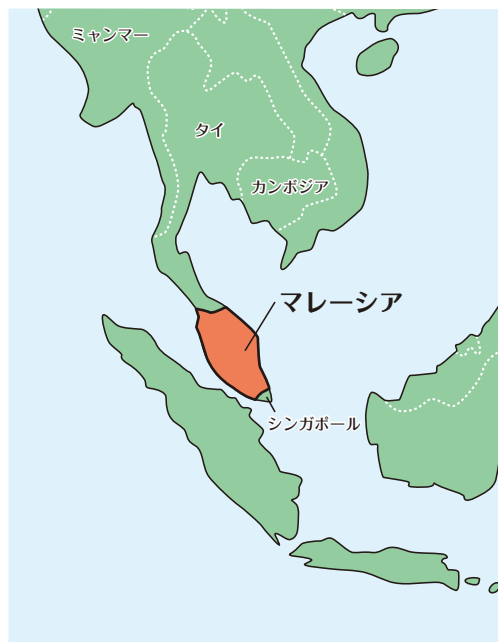
また、幼いころから海外旅行によく行っていたので、国内の旅行も国境を越えての海外旅行との違いもあまり考えたことはありませんでした。妹が台湾に住んでいることもあり、最近も毎年台湾を訪れています。海外に興味があるというより国内と海外の境目をあまり意識せず過ごしています。

民間連携ボランティアとしての挑戦

凸版印刷に就職して7年間、研究所で商品開発の仕事をしていました。元々海外にも興味があり、新しいチャレンジをしたいという気持ちが強くなりました。そこに、社内公募として民間連携制度を利用した海外研修の募集があり応募しました。

2010年頃から何度か中国に行く機会があり、当時日本のニュースでは反日デモが話題になっていましたが、現地ではそんなことは全く感じることもなく、良い人たちに出会えた経験がありました。媒体を通じて見たり読んだりする情報と現地に足を運んで得られる情報との差はとても大きく、現場を見ることの重要性を強く感じました。

研究所で研究開発を進めていく上でも、現場ニーズのインプットが重要であると考えました。発展途上国に実際に住んで、現地の人達と一緒に生活することで初めて見えてくる世界を体験したいという気持ちもありました。



ゴミ分別のワークショップの様子



あすびと福島での活動の様子

幼稚園の先生、子どもたちと

マレーシアでは、環境教育の隊員として学校や企業、自治体等で子供から大人まで幅広い対象者に出前授業を行っていました。実際にゴミ箱を用意してゴミの分別をするワークショップをしたり、教室の掃除や近所のゴミ拾いなどを体験してもらうことで、記憶に残る授業を行っていました。

現在の活動

マレーシアから帰国して1年間は凸版印刷の研究所で働いていました。帰国報告会のあとに福島への出向の話を頂き「お願いします」と即答しました。会社からはベンチャー企業である「あすびと福島」の新規事業立上げに関わり、経験を積むことが期待されています。また、マレーシアでの子供たちへの環境教育の経験が役に立つことを期待されています。

実はJICA二本松訓練所で訓練を受けていた時に被災地をめぐるスタディーツアーに参加した経験があります。ここ南相馬ソーラー・アグリパークにも訪れていた縁もあり、話をもらったときには、知っている場所だったので、すぐに決断することができました。

被災地に実際に住み、生活をする中で、初めて見えてくる事象、課題があることを心に止めて暮らしています。

現在は小中学生を対象にした、体験学習を担当しています。とくに感じたことを発表する体験を大切にしており、「発表に躊躇しない力」を育むことを目指しています。子どもたちと接する中で、「発表に躊躇しない力」は「考える力」と「行動する力」を引き出すことができると強く感じています。これが実行できる力につながり、福島の復興を担う人材育成に繋がっていくことを期待しています。

また、週末スクールでは独自に企画した教室を開催しています。7月の教室では、これまで凸版印刷で研究していた光の特性を簡単に学べる実験や工作を行いました。青年海外協力隊の環境教育で培った子供たちへの教え方、接し方を活かした企画になったと思

います。結果として70名以上の参加者が集まり大盛況でした。

新規事業の立上げにも関わっており、関連会社であるトマト菜園の6次化商品の開発や、植物性残渣をバイオマス化するプロジェクト、新しい体験学習プログラム開発などを担当しています。ベンチャー企業ならではのスピード感は、大企業には経験できません。新しいことへのチャレンジは毎日が刺激的です。

来年はまた、凸版印刷に戻り、研究所のリソースを活用した新規事業開発の仕事に従事します。これまで、マレーシアや福島で見てきた社会課題に対して、どういったソリューションが導き出せるかを考えていきたいです。

将来は、テクノロジーを活用した社会課題の解決を目指して、事業が起こればと考えています。もちろん、日本の枠を越えて世界に進出していくことを目指しています。



マレーシアの民族衣装

民間連携ボランティア制度

社員をJICAボランティアに派遣し途上国の開発に貢献することはもちろんのこと、現地での活動から、語学のみならず、ビジネスに不可欠な幅広い視野、高度なコミュニケーション能力、異文化適応能力などを身につけ、さらには現地でのネットワークを構築する等、帰国後に企業活動に還元することが期待されています。

JICAではこのようなニーズに応えるために、企業と連携してグローバル人材の育成に貢献するJICAボランティアのプログラム「民間連携ボランティア制度」を創設しました。

(民間連携ボランティア制度：<https://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/company/cooperation/>)

特集2

世界で活躍する JICA ボランティア

～日々、患者と家族に寄り添う活動を目指して～



モンゴル最西端のバヤンウルギー県にて、雪原を馬で行く。
(私はモンゴル人女性に引っ張ってもらってます。)



在外研修で中国に行きました。サモア、バブアニューギニア、
ウズベキスタンの隊員やカウンターパートたちと、症例
検討について話し合っている様子。



同僚や実習生に評価技術の指導をしています。



平成28年度第1次隊
派遣国: モンゴル
職種: 作業療法士
大槻美佳さん
(伊達市出身)

※右は同僚のネルグイさん



ハムリンヒードという
パワースポットに居る
(観光用)ラクダ。
モンゴルのラクダは2こぶで、
冬毛はふさふさしています。



飛行機から降りたら、
歩いて空港の建物に
向かいます。

Сайн байна уу?(サインバイノー:こんにちは)、伊達市
出身の大槻美佳です。

モンゴルで作業療法士として活動しています。

モンゴルは日本から直行便で約5時間、協力隊が派遣されて
いる国では最も北に位置しています。活動から1年経過し、
-37℃の冬から40℃の夏まで体験することができました。毎年
この気温差を過ごしているモンゴル人のタフさに脱帽です。

活動では、首都の国立病院で脳血管疾患や骨折などの患者
さんのリハビリを行っています。モンゴルの入院期間は10日と
短く、その間にリハビリができるのは5日間だけです。入院中か
ら家族が付きっきりで介護し、食事やトイレなどの世話を看護
師ではなく家族が行います。常に一緒ということから、日々患者
さんやその家族と接していると、モンゴル人は本当に家族想
いで患者さんをととても大事にしていることがわかります。お節
介なくらい何でも介助する家族や、命令口調で夫にリハビリ内
容を指示する妻など、人前でも自分の気持ちに素直に家族と接
しており、とても人間味溢れるモンゴルならではの国民性を感じ
ます。

人との隔たりが無く、常に率直な意見を言うモンゴル人の同
僚と関わっていると、(たまにケンカになりそうな時もありま
すが)、私ももう少し自分の気持ちや体調に素直になって周囲に
接しても良いのかな、と思えるようになりました。残る任期もモ
ンゴル人たちの生活観念を見習いながら、彼らと共に活動に励
んでいこうと思います。



VOICE

ボイス

～JICA二本松応援団～

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援して下さいの方にJICAボランティアとのエピソードや期待・エールをインタビューします。

今回は、毎隊次訓練生がお世話になっている岳温泉の居酒屋「安兵衛」の長島行子さんにお話を伺いました!思い出に残る訓練生や帰国後のJICAボランティアとのエピソード、そしてこれから派遣国へと向かうJICAボランティアへエールをいただきました!



居酒屋 安兵衛 長島行子さん

安兵衛はいつから岳温泉でお店を開いていますか?

居酒屋「安兵衛」は40年くらい前から岳温泉でお店を開いています。

当時は時期を問わず岳温泉も賑わっていて活気が溢れていました。20年くらい前から少しずつ人が減っていきそれに合わせて賑わいもなくなっていきました。ちょうどその時期に青年海外協力隊訓練所が完成して、全国から多くの訓練生が岳温泉に来るようになりました。

安兵衛にも多くの訓練生が来てくれて、夢を語り合ったり、仲間同士で交流を深めたりする姿からたくさんの方の元気をもらっています。

現在は年に4回、JICAボランティアの訓練が始まる時期に合わせてお店を営業しています。

印象に残っている訓練生はいますか?

安兵衛には本当に多くの訓練生に来てもらいました。また訓練生だけではなく、JICA二本松訓練所のスタッフさんも訓練生と一緒によく足を運んでくださいました。その中でも印象に残っている訓練生も何名かあります。

10年くらい前の訓練生ですが、いつもお店に1人でやってきては無口で他の訓練生がお店にいてもあまりコミュニケーションを取ろうとしない訓練生でした。話しかけてもあまり返答もなく自己主張しないような訓練生で、思い出に残っている話といえば「青年海外協力隊になるために会社を辞めてきたこと」くらいで、「この子、青年海外協力隊員になって2年間もやっていけるのかな?」とこちらが不安になるほどでした。

青年海外協力隊が終わった後にお店に顔を出してくれた時はびっくりしました。2年間のボランティア活動話を話してくれたり、海外でどんなことを経験したか、何が大変だったか、JICAボランティアを経験して自分の考えをしっかりと相手に伝えられる人に成長していました。

いつも2人でお店に来ていた訓練生も印象に残っています。先ほどお話しした訓練生とは対照的で2人とも仲が良く、誰とでもすぐに打ち解けられるような雰囲気を持っていました。なぜJICAボランティアになりたいのか聞いたときに「JICAボランティアを経験したということが必ずプラスになる。」と話していました。私は話を聞いているだけでわくわくするくらいですから、きっとJICAボランティアを目指す人はその魅力に気づいていて、本当に世界を変えようとしている人たちなのかもしれません。

JICAボランティアになって派遣された国から絵葉書も届きます。「あの子たちがこんなところで頑張っているのか。」と思うと嬉しくなります。

2年間、日本とは環境の違いとところに行くわけですから訓練も大変だと聞いています。だからこそ安兵衛では訓練生同士が気兼ねなく過ごせる時間を提供したいと考えてます。訓練生も身の上話や訓練所で大変なことなどなんでも話してくれます。

最後に訓練生にエールをお願いします!

自分一人で頑張ろうとせず、相手国の人たちと一緒に活動することを目指してほしいです。そしてJICAボランティアに参加してよかったと思えるような経験と帰国の時にお世話になった派遣国の方々との別れを惜しむような悔いのない活動をしてほしいですね。これからも皆さんの活躍をお祈りしています。

長島さんインタビューに答えていただきありがとうございました!
これからも候補者の交流の場としてお世話になります!



壁には訓練生から贈られた色紙と写真が飾られている



JICAボランティアを終え、帰国した隊員が持ち帰った派遣国の小物

質問コーナー

第7回目

あなたに とって 〇〇とは?

このコーナーでは、派遣中の隊員や帰国後のOV、JICA二本松のスタッフなど、JICAボランティアとして活躍している隊員や帰国後にJICAで得た経験を通して社会で活躍している方たちにさまざまな質問をしてみました!! 第7回目となる今回のテーマは、「派遣国での息抜き、休日の過ごし方?」です。



平成22年度第2次隊 ポリビア
地質学
遠藤真一さん
(いわき市出身)

「ブッチな気分」です。

私はミーハー爺なので、休日には映画の舞台を訪ね、派遣国内外で一人旅をしていました。

犬が歩けば棒に当たるの例の通り、大小様々なトラブルに遭遇しましたが、どれも楽しい思い出です。写真は映画『明日に向かって撃て』のラストシーンの現場—ウユニ近くの鉱山サンビセンテ(標高4520m)にて、P. ニューマン(ブッチ)になった気分です。

「ホッと一息」です。

コーヒーがおいしいコロンビア。カフェでカフェオレとブラウニーを食べながらホッとするのが私流の息抜きでした。

また、安全上移動に制限があるコロンビアですが、週末や連休にはステイ先の家族や派遣先の同僚にお勧めの観光地や地元の人ならではの素敵な場所にも連れて行ってもらえたのも素敵な思い出です。



平成24年度第2次隊 コロンビア
作業療法士
齋藤真里さん
(二本松市出身)



2016年度2次隊 キルギス
青少年活動
岩崎未来さん
(福島市出身)

「文化と自然に触れる」です。

お家で好きな音楽をゆったり聴いたり、キルギスの伝統楽器「コムズ」を習いに行ったりして音色に癒やされています。また、任国は自然資源が豊富なため、週末を利用して少し遠出し、夏はトレッキングや乗馬、冬はスキー等を友人と楽しんでいきます。自然に触れると心身ともにリフレッシュできるのでおすすめです!



福島にゆかりのある

JICAボランティア

2017年度3次隊

※①派遣地域 ②職種 ③出身地



青年海外協力隊

さとう
佐藤みづきさん

- ①タンザニア
- ②小学校教育
- ③郡山市



青年海外協力隊に応募する前は3年間小学校で講師を務めていました。タンザニアでは小学校教育の隊員として派遣されます。スワヒリ語をしっかりと覚えて、子どもたちの基礎学力の向上と面白く楽しい授業を展開したいです。



青年海外協力隊

くどう ふみか
工藤史香さん

- ①カンボジア
- ②理科教育
- ③福島市



青年海外協力隊に応募する前は定時制高校で講師を務めていました。カンボジアでボランティアを行ったときに「私にもっとできることはないか」という思いを持ちました。カンボジアでは教員養成校に配属になります。カンボジアの為にしっかりと頑張りたいです。



青年海外協力隊

たかはし けんじ
高橋賢人さん

- ①キルギス
- ②陸上競技
- ③会津若松市



2017年度3次隊キルギスへ陸上競技で派遣予定の高橋賢人です。任国では、2020年に開催される東京オリンピックでのマラソン選手育成と強化コーチを求められているので、自身が経験して学び得たスキルを一人でも多くの方々に愛を持って伝えてきたいと思ひます。また、地域の学校へ訪問して体力向上と肥満減少に向けた体育授業の提案なども行うので、たくさんの人々に夢と希望と諦めないことの大切さを伝えてきたいと思ひます。



青年海外協力隊

いしざわ ななこ
石澤奈々恵さん

- ①ネパール
- ②青少年活動
- ③郡山市



東日本大震災が起こり、何も支援ができなかったと後悔をしていた私の背中を押してくれたのがJICAです。今からでも遅くない、一日、一日、人は生まれ変わると教えてくれました。青年海外協力隊を通して、地元福島への恩返しをし、自分の成長にも繋げたいと思ひます。また感謝の気持ちを忘れずに自分らしくネパールで活動をしてきます。

福島県出身ボランティア

市町村別 派遣中隊員数



2017年10月31日 現在
合計派遣中:29名 累計:756名

| | | | | | | | |
|--------------|----|----|-----|---------------|---|----|----|
| 青年海外協力隊 | | | | シニア海外ボランティア | | | |
| 派遣中 | 26 | 累計 | 687 | 派遣中 | 2 | 累計 | 53 |
| 日系社会青年ボランティア | | | | 日系社会シニアボランティア | | | |
| 派遣中 | 0 | 累計 | 10 | 派遣中 | 1 | 累計 | 6 |

悩みはすべてここで解決!! なんでも相談窓口

JICA二本松訓練所HPでは、JICAボランティアに関する疑問や相談、募集に関する悩み、そしてJICA事業として行っている草の根技術協力や青年研修など、JICAに関わる全ての相談を受け付けています。どんな些細なことでも担当スタッフが丁寧に対応致します!

ぜひ一度ご相談ください!

JICA二本松 なんでも相談窓口



公式SNS、ラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook



青年海外協力隊の訓練の様子をのぞいてみよう!!

毎日、更新中!

<https://www.facebook.com/jicantc>

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて
~青年海外協力隊の道~



世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷり聞かれます。

毎週土曜 / 8:30~8:55

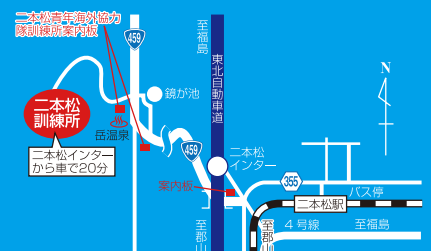
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ



二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜 / 13:00~14:00
(再放送:第3木曜/13:00~14:00)



独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200 Fax: 0243-24-3214

●本誌に関するお問い合わせ
JICA福島デスク 担当:室井(むらい) Tel:024-524-1315 Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財)福島県国際交流協会内